

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



4面

オリジナル食育絵本  
「おにぎりのやくそく」制作  
(青森県本部)

6-7面

JAグループ国産  
農畜産物商談会開催  
(営業開発部・耕種総合対策部)

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

# 山梨県JA農業機械大展示会を開催

大型農機から小型管理機、推奨型式など展示・販売

山梨県本部



メーカー担当者から操作方法や機能について説明を受ける来場者

山梨県本部は2月21、22日、甲府市のアイメッセ山梨で「第46回山梨県JA農業機械大展示会」を開催しました。

会場では農薬散布機(S)、トラクター、コンバインなど大型の農業機械から刈り払い機や小型管理機まで多種多様な農機の展示・販売が行われました。また、営農支援企画としてJAグループ山梨推奨型式展示コーナーには興味を持った来場者が集まりました。昨年に引き続き、スマート農業の提案のため、全農が普及を進める営農管理システム「ZIGGS」のブース設置やラジコン草刈り機などの展示も行われました。

各メーカーのブースでは、担当者の説明を熱心に聞き入る来場者の姿が多く見られ、活気ある展示会となりました。

# 東京都下水再生りん回収施設見学会に参加

肥料利用に向けて製造設備や生産工程を確認

耕種資材部



「りん回収・肥料化施設」を前に東京都下水道局担当者から説明を受ける参加者

全農は2月8日、東京都下水道局主催の「下水再生りん」を製造する「りん回収・肥料化施設」の見学会に参加しました。2024年1月29日に運転を開始した同施設について、農業関係団体を対象とする公開は今回が初めてです。

見学会には全農の耕種資材部関係課室・事業所、さらに東京都本部をはじめとする近隣県本部を含め、計19人が参加しました。同施設は国土交通省の下水道革新的技術実証事業

（BIDASHプロジェクト）に採択された、りん回収・肥料化を実証する施設で、東京都下水道局砂町再生センター内に設置されています。

出席者は、東京都下水道局担当者から下水道事業の仕組みと、施設概要の説明を受けた後、実際に下水再生りん製造設備や生産工程を確認しました。

全農は、昨年12月に東京都と締結した「下水再生りの広域での肥料利用に向けた連携協定」に基づき、下水再生りの肥料利用に向けた取り組みを推進していきます。

全農所属 石川佳純さんが出演!

# 国産農畜産物の 「持続可能な価格とは何か?」 ともに考える新CM 「Think Sustainable Price」を公開



全農は3月18日、全農所属で全農オフィシャルアンバサダーの石川佳純さんが出演する新CM“Think Sustainable Price”を公開しました。CMには石川さんと群馬県・千葉県の生産者が出演しています。【広報・調査部】

## CM撮影エピソード

撮影当日は、早朝、風が強く吹く農場で撮影がスタート。当初は悪天候も予想されていましたが、石川さんが農場に到着した時には青空も見えるほどの天候になりました。石川さんは広大な農場の真ん中で大きな野菜を両手に抱えながら、真剣なまなざしで撮影に挑みました。

## CM制作への思い

新CMは農畜産物の適正価格について生産者と消費者がともに考えていく「Think Sustainable Price」がテーマです。生産者の作業をノンフィクションで撮影した「群馬」編と「千葉」編に加えて、雄大な農作業の営みを、ドローンを活用してワンカットで撮影した長尺CM「Think Sustainable Price」編も公開しました。これらの新CMは、世界情勢や気候変動などの影響を受け、生産コストが高止まりする中でも、食と農を未来へつないでいくために「持続可能な価格とは何か」を生産者と消費者の立場を超えて、ともに考えるきっかけになってほしいという思いから制作しました。

## 石川佳純さんインタビュー



撮影後の特別インタビューで石川さんは「選手を引退してからスーパーに行く機会が増えたのですが、いつも食材が手に入ることは当たり前じゃないと感じています。今日は畑に来て、野菜はこうしてたくさんの人の努力で作られているのだと改めて感じました。私もいつも安全安心な日本の食材をいただいているので、消費者の皆さんと一緒に、持続可能な生活とは何かを考えていきたいなと思います。これからも農家の皆さんが愛情を込めて作ってくださった野菜の魅力を伝えていきたいです」とコメントしました。

新CMは全農広報部のYouTubeチャンネルで見ることができます。石川さんへの特別インタビューを含めた撮影時のメイキング映像も公開中です。ぜひご覧ください。



新CMは  
こちらから!

ドローンで  
撮影した60秒CM



石川佳純さん  
メイキング・インタビュー映像



青森県本部

# オリジナル食育絵本 「おにぎりのやくそく」制作

## 県産農畜産物に親しんでもらえるようお願い込めて

青森県本部は、食育活動の一環として、オリジナル食育絵本「おにぎりのやくそく」を制作しました。県本部が監修し、絵本作家かとうまふみ氏が執筆したもので、おなかを空かせた宇宙人「ポムくん」が青森県に住む「りんちゃん」とその家族に出会い、一緒におにぎりを作って楽しく食事をする物語です。



絵本「おにぎりのやくそく」のワンシーン

絵本「おにぎりのやくそく」の表紙



イベントでおにぎりを作る園児



イベントでおにぎりを食べる園児

けの汁などの郷土料理も盛り込むことで、子どもたちに食べることの楽しさを伝えるとともに、県産農畜産物への親しみを持ってもらいたいという願いを込めました。（食育活動に活用し、一般

【青森県本部】

発売の予定はございません

### 「おむすびの日」に合わせ配布

絵本の完成を記念し、1月17日の「おむすびの日」に合わせて17、18日に贈呈式を開催し、県内の保育園・幼稚園、公立図書館などへ合わせて約1100部配布しました。

贈呈式で桑田徳文前県本部長は「食育へ活用してほしい。絵本を通じて子どもたちに県産農畜産物についてもっと知ってもらえたら」と話しました。

### 出版記念イベントで読み聞かせ

2月には青森市内の幼稚園で出版記念イベントを開催し、園児約170人が参加しました。

イベントでは、ミス・クリーンライスあおもりが「おにぎりのやくそく」の読み聞かせを行い、園児たちは県産農畜産物をテーマにした物語に聞き入っていました。

また年長児向けには、おにぎり教室を開催。子どもたちは炊きたての「青天の霹靂」と、さ

また年長児向けには、おにぎり教室を開催。子どもたちは炊きたての「青天の霹靂」と、さ



ミス・クリーンライスあおもりによる読み聞かせ

さまざまな食材を使って思い思いにオリジナルのおにぎりを作りました。給食には絵本の中に登場したけの汁やリンゴも提供され、園児たちは「絵本の中に出てきたものが食べられてうれしい」「自分で作ったおにぎりだからおいしい」と県産食材を堪能しました。県本部では、今後も県内各地の保育園や幼稚園など読み聞かせイベントなどを通じて食育活動に取り組んでいきます。

県本部公式Xでは「家の自慢のおにぎり」を投稿してもらったキャンペーンも開催



# 県本部 だより

滋賀県本部



## 滋賀県初のオリジナルイチゴが誕生

### 5年の歳月をかけ育成した「みおしずく」

近年、滋賀県では新規就農者を中心にイチゴ栽培が増加しています。そんな中、県が品種育成に取り組み、県で初めてのイチゴ新品種「みおしずく」がデビューしました。「かおり野」と「章姫」の交配により得られた約1600の候補から、優れたものを選び出す作業を何度も繰り返し、2016年から5年の歳月をかけて完成しました。



「みおしずく」のロゴ

#### 「輝く宝石」公募でネーミング

21年に名前の公募を行った際には7600を超える応募が集まり、食べたときのみずみずしさ、水のイメージを通じて琵琶湖を連想させる愛らしく美しい名前として「みおしずく」が選ばれました。

「みおしずく」は、清らかなしずくのように整った形と適度な酸味の中に際立つさわやかな甘味やフローラルな香り、大粒で明るい赤色が特長です。

キャッチコピーは「びとしずくから輝く宝石へ」。さまざまなイチゴがある中で、ひととき輝いてみえる一粒に成長するとともに、生産者や消費者一人一人の思いが集まり、県を代表する「宝」になってほしい——という思いを込めました。

#### 65人が栽培、本格的に販売へ

今年度は65人の生産者が栽培しており、地元の量販店や首都圏の百貨店、生協などで販売をスタートしました。

23年12月には、東京・豊洲市場でトップセールスを行い、仲卸およそ50社100人以上に「みおしずく」を無料配布。試食した仲卸から「爽やかな甘味の中に適度な酸味があり、ふ



豊洲市場で行ったトップセールス



県庁で行われた商品発表会

わつと華やかな香りが素晴らしい」と好評でした。また1月には、銀座三越（東京都）で「みのりみのるマルシェ 東近江の実り」を県内JAと共同開催し、地域ならではの農産物や旬の食材をPR・販売しました。

#### 100%県産素材の関連商品も

1月には県庁で「みおしずく」を含む6種類の100%県産素材で作られたどら焼き「滋賀どら」と、「みおしずく」のいちごソースとフリーズドライの粉末をぜいたくに使用したチーズスフレ「近江いちごスフレ」の商品発表会を行いました。

これからの唯一の滋賀県オリジナル品種「みおしずく」がイチゴのトップブランドになるよう販売を進めます。



# 地域の魅力を未来につなぐ

## 第18回 JA グループ国産農畜産物商談会開催



PRDJブースでは出展者をゲストに招いたトークディスカッションで、一番推したい商品の魅力を会場中に発信しました。



会場入り口に展開した四季のイチオシ商品コーナーでは、各出展者が一番にお薦めしたい商品を、魅力を伝えるPOPとともに集合陳列し、来場者にPRしました。



地域産品発見コーナーでは、各地の酒類・果汁飲料・ドレッシングを集合陳列し、売り場イメージを提案しました。

### リアル開催の 食のマッチング商談会

全農は第18回JAグループ国産農畜産物商談会を2月28、29日の2日間、東京都立産業貿易センター浜松町館で開催しました。商談会は国産農畜産物とその加工品の販売チャネル拡大を目的とし、全農がJAバンクと共に主催しています。前年を大きく上回る1818人の商談者に対して、出展者が「イチオシ」の商品をPRしました。

【営業開発部・耕種総合対策部】

商談会では、92団体110小間のブースで出展者が計445商品を展示しました。会場で調理した試食サンプルも提供し、対面だからこそ伝えることができるPR方法でバイヤーの五感に訴えかけました。

特設会場で実施した予約制個別商談会では成約率向上に向けて、事前に出展者とバイヤーのマッチングを行い、71件の商談が行われました。

また、新企画のPRDJブースでは出展者をゲストに招いたトークディスカッションの他、DJがブースに赴きインタビューする突撃レポートも実施しました。その様子は音声として会場中に届けられ、バイヤーにイチオシ商品の魅力をPRしました。

出展者へのアンケートでは、複数の成約の声が届いており、「会場全体に活気があり、有意義な商談がで

## 豪華講師陣による特別セミナー実施

### 「生協として大切にしたい 商品開発の取り組み ～CO・OP NEXT100 商品開発～」

生活協同組合コープこうべ 執行役員 瀬戸口 恵子 氏



食品業界において、コープこうべが果たすべき役割として、「つくる責任つかう責任」について説明いただきました。コープこうべ創立100周年である21年に開発がスタートした、「CO・OP NEXT100商品」や、食品ロス削減の取り組みとして「てまえどり」運動など、具体的な事例を交えて紹介いただきました。



### 「JA 全農 × 伊藤園 『ニッポンエールプロジェクト』」

(株)伊藤園 マーケティング本部長 執行役員 志田 光正 氏



「農産振興」「産地応援」をテーマとした全農との共同企画「ニッポンエールプロジェクト」について概要と事例を紹介いただきました。また、24年4月8日に新たにスタートするニッポンエールプロジェクトの第3弾「東北産地応援」を説明いただき、生産者の思いを背負って、商品開発や店舗展開を進めていきたいという熱い思いをお話いただきました。



### 「冷凍食品市場拡大へ！ 日本アクセスの挑戦」

(株)日本アクセス 商品統括・マーケティング管掌補佐 商品開発部長 荒井 敏氏



冷凍食品市場の中でも、特に伸長している冷凍農産加工品の拡大について説明いただきました。また、ここ数年で大きく変化した①社会/経済動向②生産・流通・小売動向③消費者動向の3つの視点から、今後の見通しをお話いただき、さらなる冷凍食品カテゴリー市場拡大に向けた日本アクセスの挑戦を示していただきました。



### 「国産原材料を使った商品開発の拡大」

(株)セブン-イレブン・ジャパン 取締役 常務執行役員 商品戦略本部長 商品本部長 青山 誠一 氏



「明日の笑顔を共に創る」企業を目指すため、「健康」「地域」「環境」「人財」の4つのビジョンをテーマとした取り組みについて説明いただきました。その中で、「地域」と共に生きる社会の実現に向けた国産原料使用の取り組みとして、福島県とのGAP認証野菜の取り組みや、麺・パンの小麦国産化に向けた取り組みを説明いただきました。



営業開発部ではニッポンエールプロジェクト第3弾「東北産地応援」をはじめとしたニッポンエール商品、農協シリーズ商品や季節を彩る旬の総菜商品を展開しました。全農グループ会社とも連携したブース展開で、それぞれのカテゴリーのイチオシ商品をPRしました。



耕種総合対策部では、全国12JAの「TACの店」の出展商品を集合陳列してPRし、TACの役割・取り組みをバイヤーに伝えました。各「TACの店」では、担当する担い手が生産した農畜産物や加工品の魅力をPRしました。



別室会議室に設けた、予約制個別商談会場では、落ち着いた雰囲気の中で熱心な商談が行われました。



商談会終了後に余った展示商品は、出展者よりフードバンク（(特非)セカンドハーベスト・ジャパン）に寄贈し、支援活動に活用いただきました。



JAグループ  
国産農畜産物商談会  
公式ホームページはこちら



「新規・既存問わず顧客との交流が図れた」などの声をいただきました。バイヤーからは「各県のイチオシを二気にみることで、購買に役立つ可能性を感じた」「他の展示会にはない商品があり魅力的だった。もっと多くの出展者の商品を見てみたい」など、期待の声をいただきました。

次回商談会は2025年1月30、31日に同会場で開催を計画しています。

# 『JA全農が炊いた!「日本一うまいお米の食べ方」大全』 198品のレシピ本 3月1日に発売

全農が監修した書籍『JA全農が炊いた!「日本一うまいお米の食べ方」大全』が、3月1日に(株)主婦の友社から発売されました。  
【米穀部】

世界に誇る日本のお米を味わい尽くせるよう、TKG(卵かけごはん)や納豆ごはんの100倍おいしいアレンジ、がっつりジャンクなつけ飯、チャーハン、ライスオムレツ、炊き込みごはん、おにぎり、すし、かゆ、餅や米粉のおやつ

まで、「すぐに作れて幸せになれるお米レシピ」198品を紹介しています。

全農米穀部の公式X「JA全農【公式】NO RICE NO LIFE」で多くの反響があったパックごはんレシピも、新レシピを加え収録。おいしいお米の炊き方や保存法、自分にぴったりのお米の銘柄が選べる47都道府県の自慢の銘柄米の食味マップ&ごはんのお供カタログ、ごはんに合うみそや梅干しの情報も掲載しており、お米がさらにおいしく食べられる1冊です。



レシピ本『JA全農が炊いた!「日本一うまいお米の食べ方」大全』

全農米穀部の公式X「JA全農【公式】NO RICE NO LIFE」はこちら



## 佐々木朗希選手が新アンバサダーに就任 「いわて純情米」など「純情産地いわて」をPR

岩手県本部は、岩手県出身でプロ野球・千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希選手を、「いわて純情米」のアンバサダーへ起用することについて、所属球団と契約を結びました。

【岩手県本部】

2月1日に球団のキャンプ地である沖縄県石垣市で伊藤清孝県本部運営委員会会長から球団へ、岩手県産米のオリジナル品種「金色の風」と「銀河のしずく」を語呂に合わせた数量贈呈しました。

県産米を受け取った佐々木選手は「僕にとってお米はプレーの源となっている。これからはいわて純情米の素晴らしさ、おいしさを多くの人に知ってもらえたら」とコメントしました。

佐々木選手からのビデオメッセージはこちら



「金色の風」529キロ、「銀河のしずく」429キロを贈呈しました

岩手県本部 公式YouTubeチャンネル



### JA全農の産地直送通販サイト JAタウン ショップ紹介

#### おいしいとびら

うみしお みそ  
「海塩そみら」は、味噌の可能性を広げる「発酵そみファ」のシリーズ商品として、新発売の減塩味噌です。

一般的な味噌と比べて、塩分を4分の1まで減らしているのが特徴です。原料の大豆と米はもちろん塩も国産を100%使用。大豆のうまみと米こうじの甘みをしっかり感じられる優しい味わいです。

パッケージカラーの水色は、海塩を使用していることや海水に近い3.0%の塩分にちなんでいます。おいしく減塩をしたい方におすすめの商品です。



★塩分4分の1のお味噌★ 海塩そみら(塩分3%) 規格: 300g×6個……3240円(税込み)3月末～発送予定

#### 新発売記念プレゼント企画

「海塩そみら」を20名様にプレゼント

必要事項とアンケートをご記入の上、ご応募ください。  
締め切りは  
2024年4月5日(金)23:59



ご注文はこちら



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)